

## 外国語活動と「ことばの力を育む」教育

大津由紀雄（慶應義塾大学）

oyukio@sfc.keio.ac.jp

横浜市立つつじが丘小学校

2008年8月27日

### 1 学習指導要領（下線大津）

#### 第4章 外国語活動

##### 第1 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

##### 第2 内容

〔第5学年及び第6学年〕

1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。

- (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
- (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

##### 2 スキル派とコミュニケーション派のせめぎ合い

- 現実的に考えても、中学校英語の前倒しは不可能である。
- しかし、「英語」の二文字はさまざまな考慮（「戦略構想」（経済界、政府）、国民・教育産業・大学の期待、など）からはずすわけにはいかなかった。
- 読み込みが大切である。

##### 3 「ことばの力を育む」教育の基盤にある考え方

(1) 新たな知識の伝授以上に教育にとって大切なのは子どもたちの気づきを誘

発し、その世界の性質を自ら探る機会を与えることである。

- (2) ことば以上にその対象としてふさわしいものはない。(∵ ことばは人間だけに、しかも、人間に平等に与えられた宝物である。)
- (3) ことばへの気づきのきっかけ作りは直感の利く母語を対象にすべきである。
- (4) 母語を対象に育まれた、ことばへの気づきは外国語の学習の基盤としても不可欠である。

#### 4 「きたないからさわっちゃだめ！」

(ことばについて) えっ！

おもしろい！

不思議だ！

楽しい！

#### 5 ワークショップ 1

「歯医者さんの歯ブラシ」

#### 6 ワークショップ 2

「こわい 目の ( )」

#### 7 ワークショップ 3

「2人の横綱の師匠」

- (1) 2人の横綱の師匠が批判し合った。
- (2) 2人の横綱の師匠が若い女性と再婚した。

#### 8 ワークショップ 4

ことば遊び

回文

「僕のお姉ちゃんは男だ！」

#### 8 教材と教案の共同開発